

# 新年 賀 謹

甲賀市議会議長

岩田 孝之



甲賀市長

中嶋 武嗣



平和なうちに平成24年の新年が暮を明けました。市民皆様と共に輝かしい初春を迎えられることを何よりうれしく存じます。

昨年中は、市政全般に渡り格別のご厚情を賜りましたことを感謝いたしますと共に、本年もよろしくお願い申し上げます。

さて、内外を見渡しますと、世界の政治情勢や経済動向に不透明感が残り、内政においても、既成政党にない何かを国民が求めているのか、地域政党の活躍に政局の節目を迎えた感があります。また、TPP（環太平洋経済連携協定）も交渉へ参加することが表明され、これから参加国の協議において、国内農業や工業界の規制緩和を外国で約束し、世界市場での決められたことが日本の産業を動かしているかという思いがありますが、果たして「国益」という人々の合言葉に叶うだろうかという思いもあります。過去の事例を教訓に、いかなる過ちも繰り返してはなりませんし、国民が願っている「安定」こそ、大切にされなければならない時代ではないかと考えています。

同時に、普段から地道な暮らしをしている市民皆様が、生命あることを謳歌しながら、「生まれてよし」「生きてよし」「任んでよし」を心から喜び合える甲賀市の姿を思い描いています。モノから心の時代といわれて久しくなりますが、平和のありがたさを噛み締め、むごい戦争やいわれなきあらゆる人権差別を自らの力で排除できる、福祉の原点である人間愛に溢れる理想郷を市民皆様の積極的な参加のもとに実現できれば素晴らしいことだと思います。

新しいコミュニティも本格的に動き出しました。自治組織を縦横に活動させていくことによつて、広い視野での人づくりや教育が、かけがえないものを育んでいくと確信しています。そのために、市民、自治区の役員、市議、市職員みんなで助け合いができるまちを目指し、全力を尽してまいります。市民皆様にとつても、甲賀市にとつても、いいことが一つでも多い年でありまして、ことお祈りしつつ、新年のご挨拶とします。

平成24年の新春を、ご家族お揃いでお健やかに迎えの事と心からお慶び申し上げます。

さて、昨年は3月11日に発生した東日本大震災による津波、福島原発事故、更には9月の紀伊半島を中心とする未曾有の豪雨等、大変な1年でありました。

多くの人命や家屋、店舗、港湾施設、田畑等が一瞬の内に失われたあの出来事を私たちは生涯忘れることはないでしょう。被害に遭遇し、10ヶ月が経過した今でも、被災地の皆様は、生活の目途や住んでいた地域へ帰る見通しすら立たない厳しい現状が伝えられています。国家としての迅速な対応により、一日も早い復興を願うとともに、私たち国民一人一人がどのような支援と負担をしていくのか、今後の大きな課題であると考えています。

普通に当たり前に暮らせることが、これほど幸せで有難いことであるかを感謝できる敬虔な心を実感した年になりました。

甲賀市では現在、東日本大震災を受け、市の防災計画の見直しに着手しており、現在の防災計画の想定や問題の洗い直しが行われています。また、昨年の12月議会では、福井県に立地する原子力発電所で重大な事故が起きた場合を想定し、安定ヨウ素剤や防護服、放射線測定器などを緊急配備する予算が承認されました。

さらに、昨年度から進めている市内情報基盤整備事業では、防災情報を全戸に伝達する方法も含め検討がされています。

いずれにしても、市民の皆様の安心安全を確保するための対策が、今、行政の優先すべき課題となっております。

議会といたしましても、市民の安全、安心の生活基盤の確立に向け、ご期待に応えられるよう決意を新たにしております。

本年が皆様にとつて、平穏で幸多い年でありませうとご祈念申し上げます。ごあいさつと致します。